

## モスクワ日本人学校での教育活動

### 2003年度 モスクワ日本人学校派遣 総社市立清音小学校教諭

モスクワ日本人学校は、ヨーロッパで一番歴史のある在外教育施設として1967年に設立されました。小中併設校で現在90名前後の児童生徒が学び、14名の教員が文部科学省より派遣されています。子供達はすべてスクールバスかドライバー付きの自家用車で通学しています。赴任中も地下鉄爆破テロ、北オセチアの学校占拠事件など大小様々な治安面での事件が発生しました。また気候面（1年間の半分程度は雪に閉ざされ、-25を下回ると休校になります）や医療面でも日本よりかなり厳しい状況にあります。そのようなハンディキャップにも負けず子供達は逞しく学校生活を送っています。保護者の仕事の都合で3年程度ではほぼ全児童生徒が入替わり中、少人数・小中併設校の利点を生かして、家族を含めて、みんな兄弟のようなつきあいがあります。一昨年度には新しくグラウンドが整備（全天候型250mトラック・芝生のサッカー場・テニスコートなど）されました。昨年度はそのグラウンドを使って、今までやりたくてもできなかった組体操などの種目を取り入れた新しい形での運動会を実施しました。また、コンピュータ室が改装され、教育設備環境も国内に負けないように充実させてきています。

#### （特色ある教育活動）

治安面・気候面、また日本の情報や物資が乏しい中、モスクワでの生活に適應できるような逞しさを身につけ、日本に帰った時、ロシア・モスクワを語ることのできる児童・生徒の育成をめざしています。そのために、以下のようなことを常に考えながら教育活動を行っています。

気候面・治安面からモスクワに来てからの児童生徒の体力低下が心配されます。そのため気候的に運動に適した4月から9月末までは、体育の時間を週3時間とり、前年度の新体力テストの結果などにに基づき、本年度の重点課題をカリキュラム化した授業を行っています。また本校にはプールがないので、オリンピックプールを借りての水泳指導が行われています。冬はグラウンドにカトーク（スケートリンク）を設置し、スケート学習を行っています。毎週日曜日にはオリンピックスタジアムの近くのカトークでアイスホッケーを習っている児童生徒も多いです。（教員もほとんど参加しています）

授業時数が国内に比べかなり多いです。学習指導要領に準拠した教育活動の他に、余剰時間を使ってロシア語を週2時間、英会話を週1時間（小学部）、国語・算数を中心とした基礎・基本の定着を定着させる時間や発展学習を行っています。また小中併設の利点を生かして、中・高学年の社会科や理科は中学部の教師が授業を行っています。（私も2年間、中学部の体育の授業を行いました）総合的な学習の時間も、ロシア・モスクワならではの題材を取り上げ、学ぶ力の伸長を図っています。一昨年度に6年生を担当した時には、モスクワの福祉施設（孤児院）との交流を通しての福祉教育を行ってきました。昨年度4年生を担当した時には、現地校との交流や合同調理実習を通してロシアと日本の食文化について深めました。また本校の入居している校舎には、イタリアン校・フィンランド校・スウェーデン校が同居しており、サッカー大会などの学校間交流も盛んです。

少人数でアットホームな雰囲気の中での学校生活ですが、新しく来た児童生徒のモスクワ生活への適應、日本に帰ってからの適應を考えた取り組みも欠かせません。本校は2001年度まで文部科学省の海外子女教育研究協力校に指定を受

け、教育相談の研究・実践に取り組んできました。今でもその時の財産を生かし、カウンセリングマインドを重視した教育を行うよう心がけています。



モスクワ日本人学校校舎



小学部4年生 ポルシチ作り